

---

# 決断

小町

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

決断

### 【Nコード】

N4477E

### 【作者名】

小町

### 【あらすじ】

親孝行しとけばよかったと後悔する話

私には父親がいなかった。小さいときから母親一人に育てられた私にとつてそれが当たり前のことであり父親の存在なんて気にもしなかった。そして父親がいなかったことが少し変わっているということを知ったのは小学生になってからだだった。

級友には父親がいるけど自分にはいない。疑問に思い、何故自分には父親がないのか母に聞いたことがある。そのときの母の顔は動揺し泣きそうで、そのまま私は抱きしめられた。石鹸の匂いがする母に抱かれながら、聞くんじやなかったと後悔したことを今でも覚えていいる。

また母子家庭だったので周りの子と比べて貧しかった。服も上等では無いし、偶にある弁当の日は最悪だった。私は、周りの子が嬉しそうに自慢しあうのを横目で見つっ、日の丸弁当を食べた。ただ運動会のときは別だった。その日だけは稲荷寿司や様々なおかずが並んでおり、青葉茂る木の下で、稲荷寿司を食べる私を穏やかな目で見る母が印象深かった。

中学生になり、悪友とつるむようになって荒れた。授業をサボって町に出かけ、喧嘩をしてケガを拵える。周りの人間は無視していたが、母だけは心配してくれた。大怪我をして病院に運び込まれたときも、意識を取り戻し真っ先に見たのは、涙を流しながらよかつたと何度もつぶやく母の姿と白い天井だった。怪我を治した私はこれ以上苦勞を掛けたくなかったので、陸軍士官学校に進むことに決めた。教師は無理だといって笑ったが、朝から夜までずっと勉強したおかげでギリギリ進むことができた。合格を知った母は自分のことのように喜んでいて。入学式の日、桜がふわりと舞い揚がり、太陽光とのコントラストが美しかった……

「大佐殿？」

「ああ、すまない」

あまりにも衝撃が大きい命令に意識が飛んでいた。この命令は実行したくない。しかし命令は絶対であり、この命令に従わなかったらもつと大勢の犠牲者が出る。この事故を起こした名も分らない人間を呪った。

震える手をできるだけ抑えようとボールペンを握り書類にサインする。

「ABC防護服を着用の上、部隊を中津地区に展開し封鎖せよ。一人も外に出すな」

「ハッ」

書類を渡し、揺れる声で命令する。部下が部屋から出て行きドアが閉まると溜息を吐いた。

後悔の念がどんどん溢れる。なぜ命令を下してしまったのか。その前に、なぜ母親をこっちに呼ばなかったのか。もつともつと親孝行しとけばよかった。毎年ちゃんと母の日に花を送くり、誕生日を祝ってやればよかった。頻繁に会いに行けばよかった。後から後から考えが噴出す。

机の上にあるカップにはコーヒーと牛乳が溶け合い冷めていた。

(11月25日付の新聞より抜粋)

昨日未明、謎の新型ウイルスにより汚染地域になった中津地区を中心とする地区に軍による滅菌作戦が行われた。作戦は成功し1万五千の犠牲者が出たものの、他の地区への感染は防いだ。新型ウイルスに関して政府は正式なコメントをしていないが、中津地区には陸軍研究所があり、関係が疑われている。

(後書き)

批評よろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4477e/>

---

決断

2010年11月26日06時36分発行